Lifestyle® 18Ⅲ/Lifestyle® 38Ⅲ DVDホームエンターテインメント・システム

取扱説明書 設置ガイド

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告		
	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

通風孔のある機器のみ

●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。

●この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。

分解禁止

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ

●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

⚠ 注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電池を使用する機器のみ

●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

Safety Information

スピーカー部について

区分	内容
警告	●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
	●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
	●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。
	●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
	●＜本製品＞を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
	●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

区分	内容
注意	●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
	●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
	●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
	●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
	●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

製品について

区分	内容
注意	●ゴム足は素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性あります。事前にご確認のうえご使用ください。
	●付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。

Contents

※「故障かな？と思ったら」、「仕様」については操作ガイドをご覧ください。

設置を始める前に

Lifestyle® 18Ⅲ/Lifestyle® 38Ⅲ(以下 LS-18Ⅲ/LS-38Ⅲ)をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この設置ガイドをお読みになる前にクイックセットアップガイドにしたがって設置が終了されたお客様は、"「アダプトIQ」による音場補正(システム調整)"(26ページ)まで進んでいただいてもかまいません。
設置を終えられていないお客様はこの設置ガイドの順番にしたがって作業を行ってください。
また、このガイドは必要なときにご覧になれるよう保管される事をおすすめします。

再生できるディスクについて

LS-18Ⅲ/LS-38ⅢのDVD/CDプレーヤーは、以下のタイプのディスクを再生できます。

・DVDビデオ

・音楽CD

・ビデオCD

・CD-R、CD-RW

・DVD±R、DVD±RW
※DVDビデオとして再生するには、ビデオモードでフォーマットしファイナライズする必要があります。但し、使用するディスクの特性・汚れ・キズまたは、ピックアップの汚れ・結露等により再生できない場合があります。

・MP3 CD
※全てのトラックは、ディスクアットワンス(シングルセッション)で書き込まれていること。
※ディスク・フォーマットは、ISO9660に準処していること。
※それぞれのファイルに、".mp3"の拡張子が付いていて、拡張子以外に"."を使っていないこと。

地域番号を確認してください

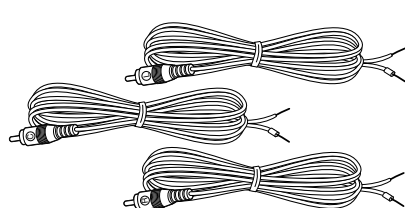
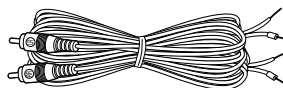
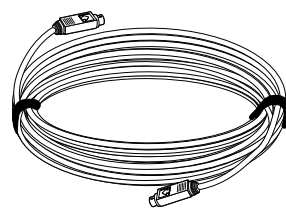
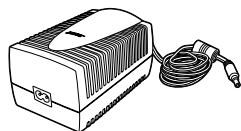
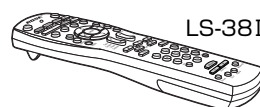
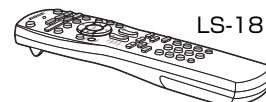
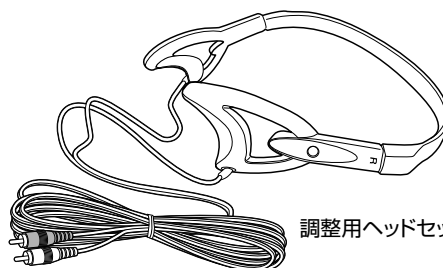
DVDプレーヤーとDVDディスクの地域番号(リージョンコード)が合っていなければ使用できません。地域番号はそれらの機器、DVDディスクが使用される国または地域ごとに割り当てられています。本機の場合はリージョンコードは「2」です。
DVDディスクはジャケットやケースなどに記載されています。日本で視聴できるディスクには右のような記号があります。
また、業務用ディスクの中には、本機での再生が禁止されているものがあります。

   など

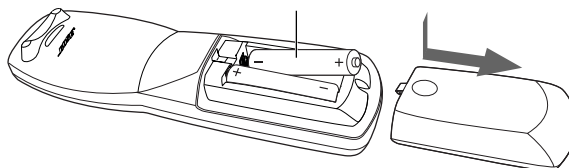
設置作業を始めます

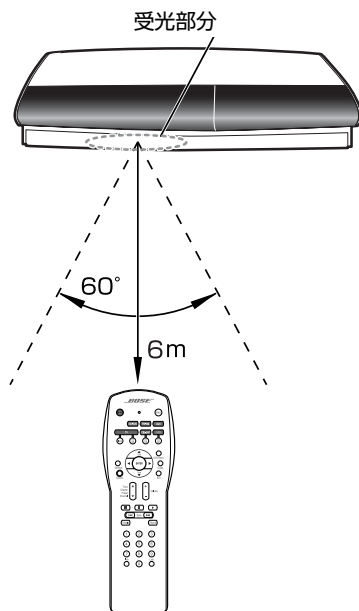
箱や梱包材は、後日修理やメンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

⚠ 警告：製品を包んでいたビニール袋はかぶったり飲み込んだりして窒息する危険がないように、子供の手の届かない場所に保管するか、処分してください。

付属品の確認

リモコンの電池の入れかた

1. リモコンを裏返しにしてバッテリーカバーを下に押し込みながら引き出すように電池ボックスを開けます。
2. ボックス内の表示に合わせて乾電池(単三型2本)を入れてください。
3. スライドさせるようにしてバッテリーカバーを閉めてください。

⚠ 注意：付属の乾電池は動作チェック用として同梱してあります。新品の乾電池よりは使用期間が短くなりますので、およそ1年後を目安に、新しい乾電池と交換してください。

⚠ 電池についての注意

- 指定以外の電池を使用しないでください。
- 乾電池の⊕と⊖をショートさせないでください。
- 乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 電池を加熱しないでください。
- 分解しないでください。
- 火や水の中に入れないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヵ月以上)リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
- 液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

⚠ 使用上の注意

- メディアセンターの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますので、ご注意ください。
- リモコンとメディアセンターの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。

電池の交換時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を2本とも新しい乾電池に交換してください。新品のアルカリ電池を使用すれば通常約2年程ご使用いただけます。

設置方法

ここに示しました設置のガイドラインは、製品の性能を最大限に活かしてより広い空間印象でホームシアターをお楽しみ頂くためにおすすめするものです。ただし、これを参考にご自分のお好みやお部屋の状況に応じてより良い設置場所を探して頂いても構いません。また、「お部屋の状況」「スピーカーの位置」「リスナーの位置」に応じた最適な音響特性に調整するため、全てのスピーカーの設置と結線が終了した後に「アダプトIQ」による音場補正（26ページ参照）をあわせて行うことをおすすめします。

⚠ 警告：スピーカーを設置する部分が滑りやすい材質の場合は、スピーカーが音を出したときの振動などで滑って落下する恐れがあります。このような場所に設置する場合は滑り落ちないように滑り止めの処置を行って設置してください。

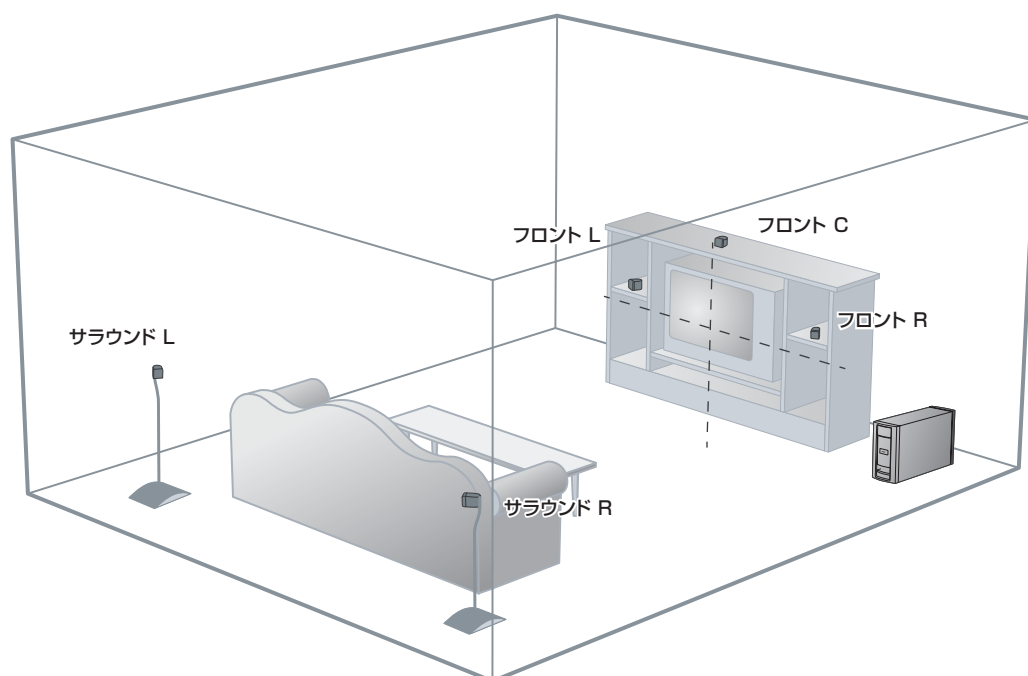
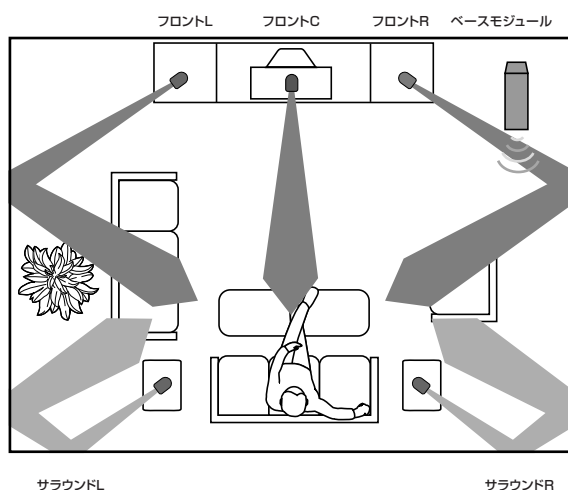
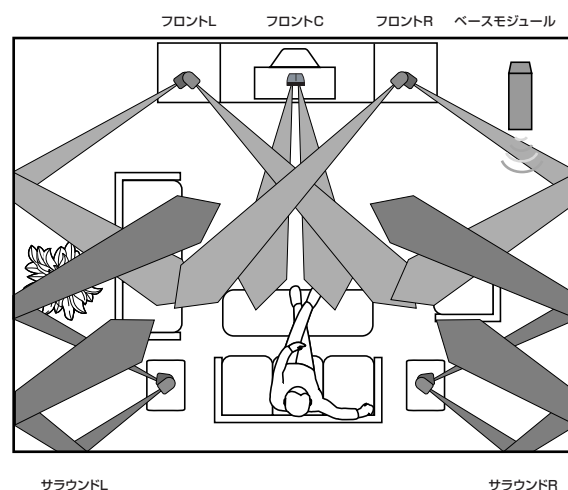
フロントスピーカーの設置位置について

音場イメージと視覚イメージが一致するように、フロントL/R（左右）のサテライトスピーカーから出る音声はテレビやスクリーンなどの画面の両端から聞こえるように設置します。

1. 大型テレビやスクリーンの場合は両脇にスピーカーを設置します。小さな画面のテレビの場合は、画面の端からそれぞれ60cm以内に設置することをおすすめします。ベースモジュールとサテライトスピーカーの距離は、付属のスピーカーコード（6m）の届く範囲内に設置してください。サテライトスピーカーを設置する高さは画面中央になるように設置することをおすすめします。

2. サテライトスピーカーは、壁のある方向あるいは前方以外に向けて反射音を作り出します（10ページ参照）。

♪：サテライトスピーカーは、テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型を採用しています。

♪：天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に画面とスピーカーの高さは変えないほうが良いでしょう。

LS-18Ⅲ

LS-38Ⅲ

フロントC(センター)スピーカーの設置位置について

フロントC(センター)スピーカーから出る音声が、画面の中央から聞こえるように設置します。ベースモジュールからの距離が付属のスピーカーコード(6m)の届く範囲内に設置してください。

♪：天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に画面とスピーカーの高さは違えないほうが良いでしょう。

1. サテライトスピーカー1台をセンタースピーカーとしてテレビの上または下のなるべく画面に近いところに置きます。下に置く場合はサテライトスピーカーに直接テレビの重量がかからないようにしてください。

♪：センタースピーカーをテレビの上やラックの上にじかに置く場合は、安定性を良くするために付属のセンタースピーカー用ゴム足を使用してください。

♪：サテライトスピーカーは、テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型を採用しています。

2. テレビの上に置く場合は、なるべく画面の一番手前になるように置いてください(テレビの奥の方には置かないでください)。

サラウンドスピーカーの設置位置について

1. リアサラウンド用サテライトスピーカーは、なるべくリスナーの横か部屋の半分より後ろ側に設置します。高さは耳の高さかそれより高い位置に設置します。

2. サラウンド用サテライトスピーカーの向きは上図のように、できるだけスピーカーからの音を反射させ、耳に届くまでの音の道のりが長くなるようにします。スピーカーの向きがリスニングポジションに向いてなくてもアダプトIQの実行で各スピーカーの特性は均一化されます。

ベースモジュールの設置位置について

次のことを確認して設置してください。

・ベースモジュールに接続するケーブル類が届く範囲内であること。

・設置する場所はテレビやフロントスピーカーが設置してあるのと同じ側であること（10ページ参照）。

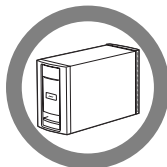
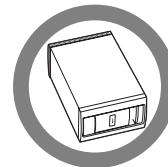
・ベースモジュールは非防磁型のスピーカーなので、ブラウン管を使用しているテレビの場合は画面に影響を与えないように60cmは離れていること（機種とブラウン管のサイズによって異なります）。

⚠ 注意：ベースモジュールは防磁処理がされていません。そのため、ビデオテープ、カセットテープ、その他磁気による記録媒体を直接あるいは近接した場所に保管すると内容が消えたり、再生できなくなる場合があります。磁気による記録媒体をベースモジュールの近くには保管しないでください。

音の出る前面部分と後部スリットを塞がないようにしてください。

・ベースモジュールは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置することができます。その際、家具やカーテンがベースモジュール後部の換気冷却用スリットを塞がないように、また前面および後面と壁までの距離を5cm以上離してください。

・ベースモジュールは、音が出る前面部分が塞がれることを防ぎ、効率よく低音エネルギーが得られるように、前面部分を部屋に向けるか、壁に沿うように設置します。壁面に向ける場合は5cm以上離してください。

・ベースモジュールは底面または、側面を下側にして設置することができます（下図参照）。

最適な設置
この置き方が内部を一番効率よく冷却できます。

可能な設置
側面を下にして設置することもできます。

禁止
後部アンプ部を下にして設置しないでください。

禁止
前面部を下にして設置しないでください。

禁止
逆さまに設置しないでください。

・置き方が決まったら、下の部分になるところの4すみに付属のゴム足をつけます。安定度を高め、床に傷が付くのを防ぎます。

⚠ 注意：ベースモジュール後部のスリット部分からの換気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してスリット部分を塞がないようにしてください。

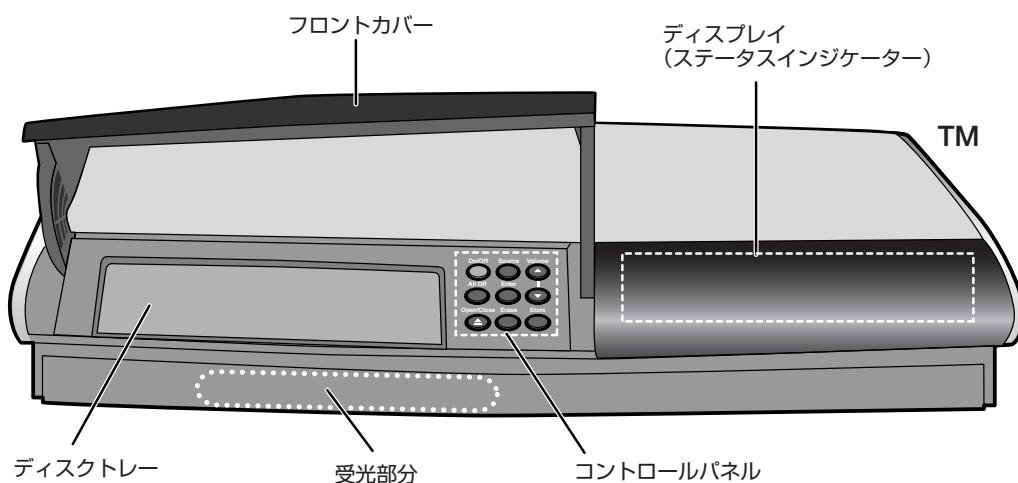
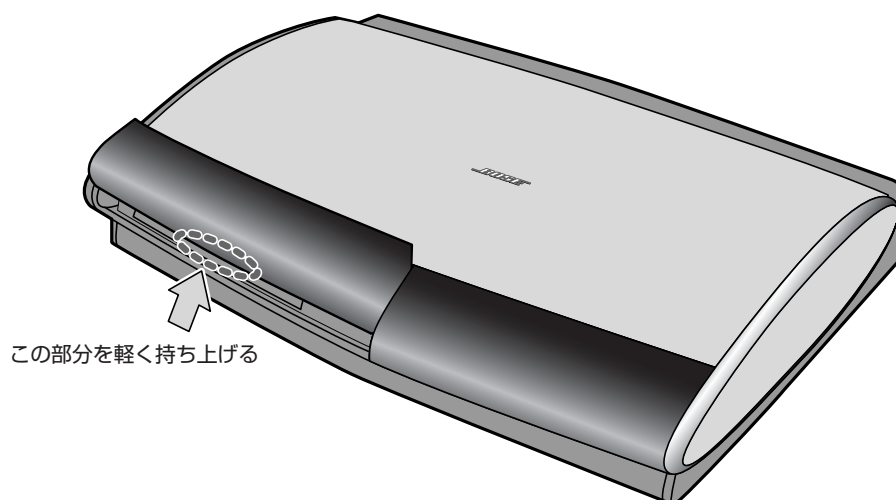
メディアセンターの設置について

次のことを確認して設置してください。

・メディアセンターの前面には邪魔になるような物を置かないでください。また、フロントカバーを開けるだけの十分なスペース（10cm以上）を確保してください。インジケーター部分もよく見えるように設置してください。

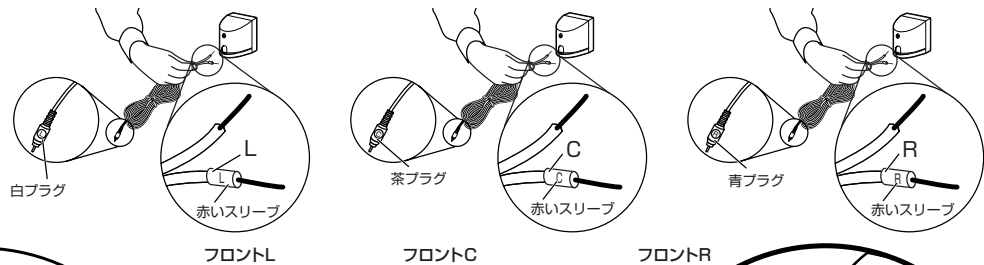
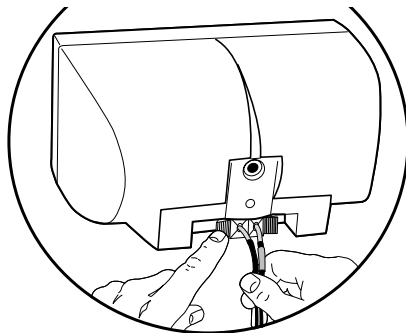
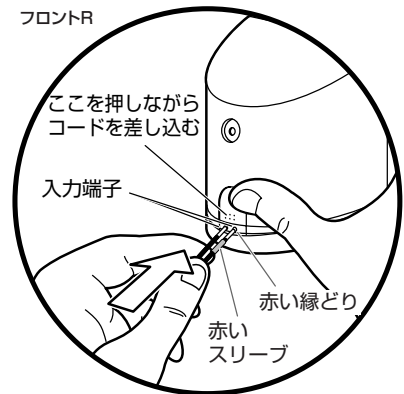
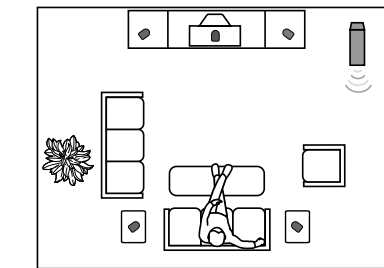
・接続する機器（テレビやビデオデッキ）との距離がケーブルの届く範囲であることを確認してください。もし、付属のケーブルで届かない場合は、市販のオーディオケーブルや映像ケーブルをご用意ください。

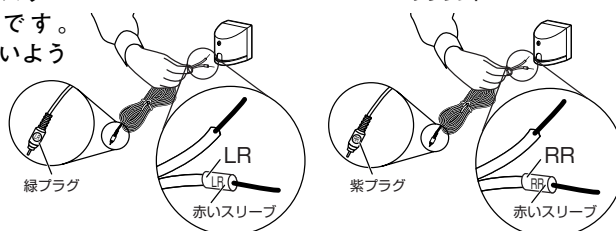
・メディアセンターとベースモジュールを接続するケーブルは約9mあります。このケーブルの長さの範囲内に設置してください。

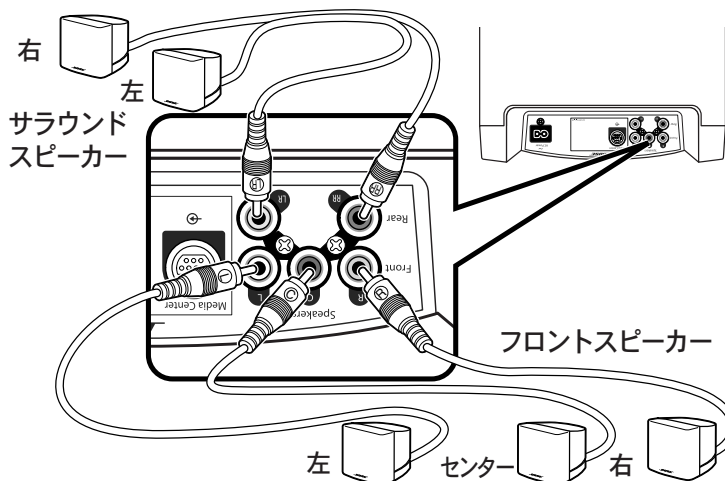
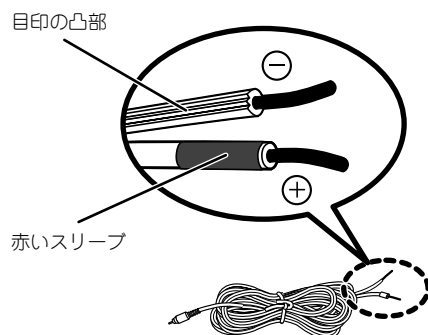
・すべての結線が終わるまで接続している機器の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

ベースモジュールとサテライトスピーカーの結線

⚠ **注意：** すべての結線が終わるまで接続している機器の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

2

・スピーカーコードをサテライトスピーカーに接続します。

スピーカーターミナルは赤が ⊕ 、黒が ⊖ です。コードは赤いスリーブがついている方が ⊕ です。コードの ⊕ ⊖ を間違えないように注意してください。

5個のサテライトスピーカーを全て同じように接続します。

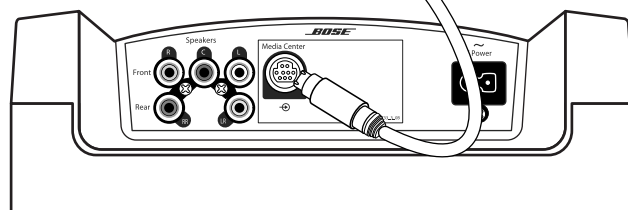
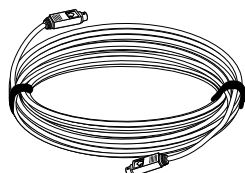
※赤いスリーブが付いている方のコードをスピーカーの背面にある入力端子のうち赤い縁どりがある方に差し込みます。

3

・スピーカーコードのピンプラグを確実にベースモジュールのジャックに差し込みます。

- 青プラグのコードは右フロントスピーカーにつないでください。
- 茶プラグのコードはセンタースピーカーにつないでください。
- 白プラグのコードは左フロントスピーカーにつないでください。
- 紫プラグのコードは右サラウンドスピーカーにつないでください。
- 緑プラグのコードは左サラウンドスピーカーにつないでください。

♪：スピーカー側は、赤いスリーブが付いている方が ⊕ になります。スリーブが取れてしまったり、コードを短くしてご使用になる場合は、図のようにコードに凸がある方が ⊖ になりますのでコードの凸を目印にしてください。

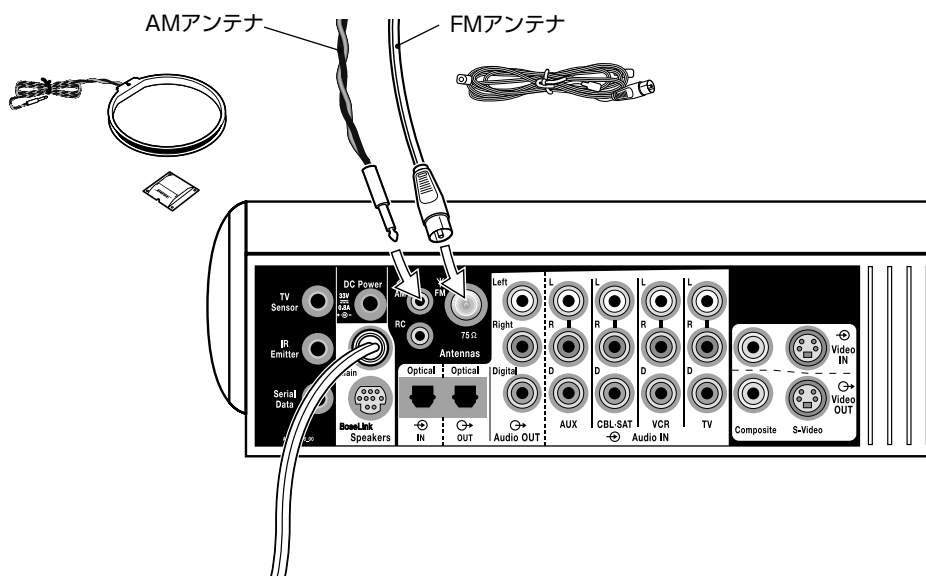
ベースモジュールとメディアセンターの接続

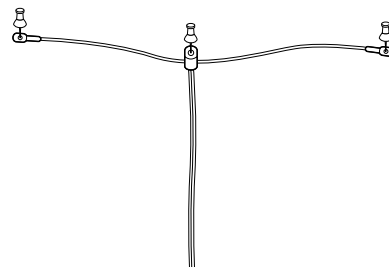
付属のメディアセンター･ベースモジュール接続ケーブルを使って、メディアセンターとベースモジュールを接続します。

1. コネクターの片側を平らな面を上にしてメディアセンター背面の ‘Speakers Main’ に差し込みます。
2. もう片側のコネクターをベースモジュールの ‘Media Center’ と書いてあるジャックに差し込みます。

3

付属アンテナの接続

メディアセンター背面にAMとFMのアンテナ接続ジャックがあります。アンテナ線は丸めたりせず、必ずのばした状態でご使用ください。

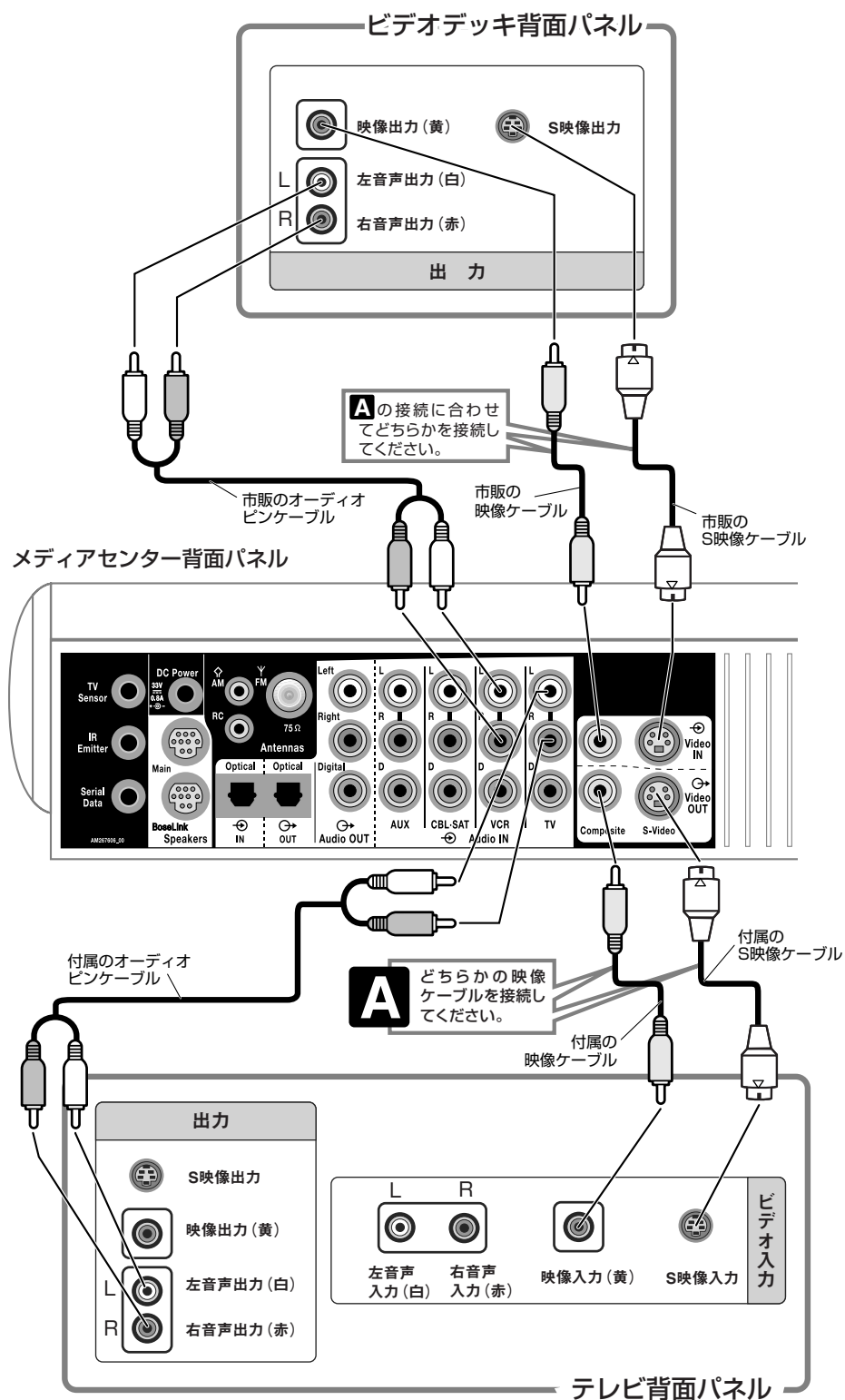
♪：室外アンテナをご使用になる時
電波の状況などは、地域によってさまざまですので、お近くの電気店などにご相談ください。また、安全のためにも専門の業者にご相談ください。

FMアンテナの接続

1. メディアセンターのFMアンテナジャックに付属のFMアンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
2. アンテナアームを広げます。アンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の受信状態が得られる位置を探してください。また、アンテナはメディアセンターや他の機器からできるだけ離して設置してください。

AMアンテナの接続

♪：壁にアンテナを取り付ける際は、アンテナに同封してある説明書にしたがって作業を行ってください。

1. メディアセンターのAMアンテナジャックに付属のAMアンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
2. ループアンテナを付属のAMアンテナスタンドに立てる場合は、アンテナに付属の説明書をご覧ください。
3. アンテナのループをできるだけメディアセンターや他の電気器具から離してください。少なくともメディアセンターからは50cm以上、ベースモジュールからは60cm以上離して設置してください。アンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の受信状態が得られる位置を探してください。窓際の方が感度が上がる場合が多いようです。メディアセンターやベースモジュールに近づけると受信感度が低下する場合があります。

テレビ、ビデオデッキの接続1

テレビに映像入力が1系統しかない場合

ビデオデッキ背面パネル

映像出力（黄）
S映像出力
L 左音声出力（白）
R 右音声出力（赤）
出　力

Aの接続に合わせてどちらかを接続してください。

市販のオーディオピンケーブル
市販の映像ケーブル
市販のS映像ケーブル

メディアセンター背面パネル

TV Sensor
IR Emitter
Serial Data
DC Power 33V 0.8A
Main
BoseLink Speakers
AM
FM
RC
75Ω
Antennas
Optical IN
Optical OUT
Left
Right
Digital
Audio OUT
AUX
CBL·SAT
VCR
TV
Audio IN
Composite
S-Video
Video IN
Video OUT

付属のオーディオピンケーブル

A どちらかの映像ケーブルを接続してください。

付属の映像ケーブル
付属のS映像ケーブル

出力
S映像出力
映像出力（黄）
L 左音声出力（白）
R 右音声出力（赤）

L R
左音声入力（白）
右音声入力（赤）
映像入力（黄）
S映像入力
ビデオ入力

テレビ背面パネル

	テレビの操作	ビデオデッキの操作	メディアセンターの操作
テレビを見る	テレビのチャンネルを見たい番組に合わせる		テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
ビデオを見る	メディアセンターを接続した入力（ビデオ）に切り替える	ビデオを再生する	VCRに切り替えるリモコンの**VCRボタン**を押す
DVDを見る	メディアセンターを接続した入力（ビデオ）に切り替える		DVDを再生する（操作ガイド参照）

A 映像信号の接続について

テレビの映像入力端子とメディアセンターを接続する映像ケーブルは、付属の映像ケーブル（黄色のピンケーブル）またはS映像ケーブルをご使用ください。テレビ側にS映像入力がある場合は、S映像ケーブルをご使用になる方がより高画質で映像をお楽しみいただけます。

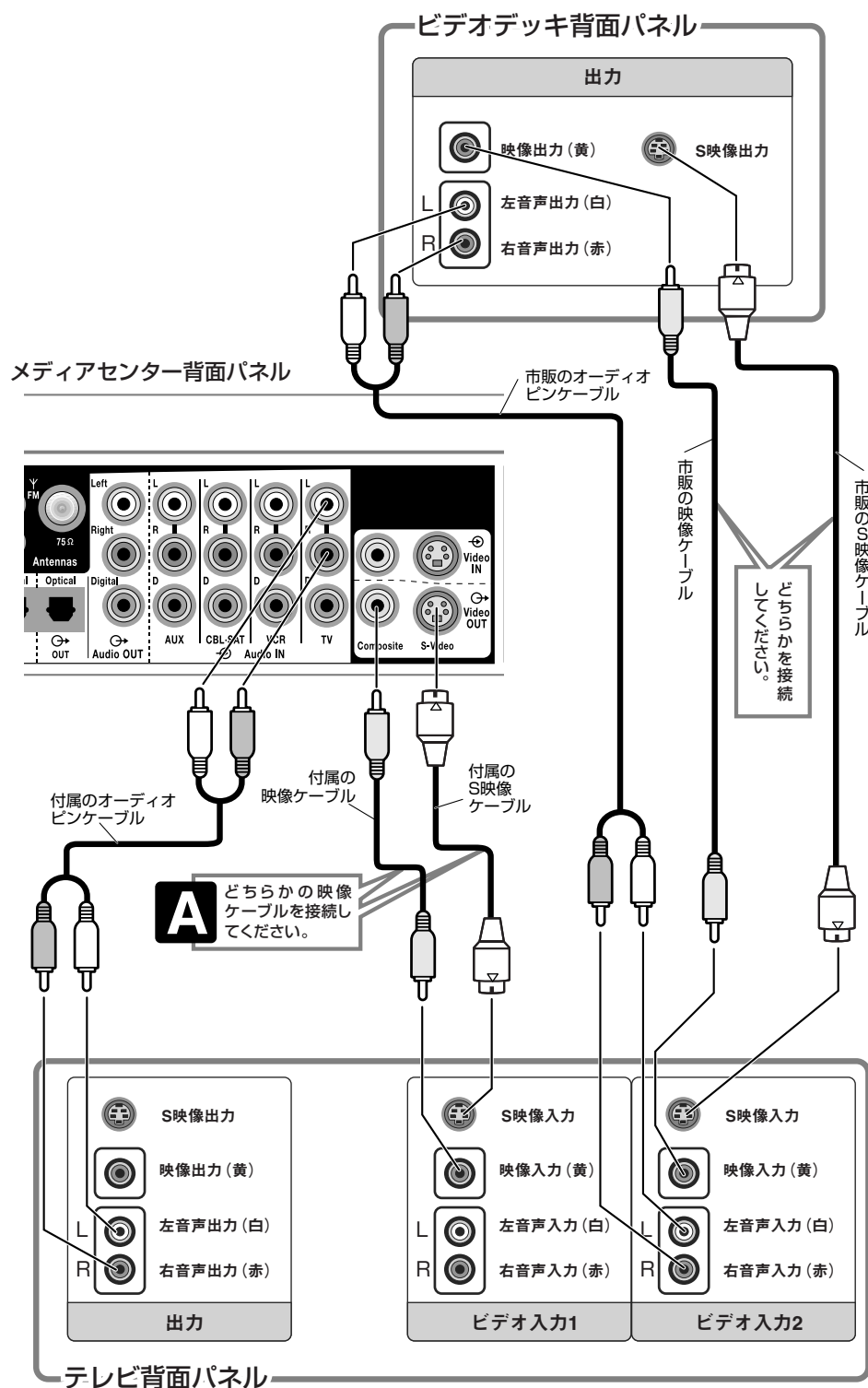
♪注意：メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子は接続しないでください。DVDビデオを再生した場合著作権保護の影響により画面が乱れる事があります。

♪注意：メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子を映像ケーブル（黄色）で接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子との接続も映像ケーブル（黄色）で接続してください。メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子をS映像ケーブルで接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子との接続もS映像ケーブルで接続してください。

テレビからの音声について

テレビの音声をLS-18Ⅱ/LS-38Ⅱで楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビの音量を最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビ、ビデオデッキの接続2

テレビに映像入力が2系統以上ある場合

ビデオデッキ背面パネル

出力

映像出力（黄）

S映像出力

L 左音声出力（白）

R 右音声出力（赤）

メディアセンター背面パネル

市販のオーディオピンケーブル

市販の映像ケーブル

市販のS映像ケーブル

どちらかを接続してください。

Left Right Digital L R D L R D L R D L R D

FM 75Ω Antennas

Optical OUT Audio OUT AUX CBL·SAT VCR TV Audio IN

Video IN Video OUT Composite S-Video

付属のオーディオピンケーブル

付属の映像ケーブル

付属のS映像ケーブル

A どちらかの映像ケーブルを接続してください。

出力	ビデオ入力1	ビデオ入力2
S映像出力	S映像入力	S映像入力
映像出力（黄）	映像入力（黄）	映像入力（黄）
L 左音声出力（白）	L 左音声入力（白）	L 左音声入力（白）
R 右音声出力（赤）	R 右音声入力（赤）	R 右音声入力（赤）

テレビ背面パネル

	テレビの操作	ビデオデッキの操作	メディアセンターの操作
テレビを見る	テレビのチャンネルを見たい番組に合わせる		テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
ビデオを見る	ビデオデッキを接続した入力(ビデオ2)に切り替える	ビデオを再生する	テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
DVDを見る	メディアセンターを接続した入力(ビデオ1)に切り替える		DVDを再生する(操作ガイド参照)

A 映像信号の接続について

テレビの映像入力端子とメディアセンターを接続する映像ケーブルは、付属の映像ケーブル(黄色のピンケーブル)またはS映像ケーブルをご使用ください。テレビ側にS映像入力がある場合は、S映像ケーブルをご使用になる方がより高画質で映像をお楽しみいただけます。

♪注意：メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子は接続しないでください。DVDビデオを再生した場合著作権保護の影響により画面が乱れる事があります。

テレビからの音声について

テレビの音声をLS-18Ⅲ/LS-38Ⅲで楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビの音量を最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビ、HDD DVDレコーダー、地上デジタル/BSデジタルチューナーとの接続

	テレビの操作	HDD DVD レコーダーの操作	地上デジタル/BSデジタルチューナーの操作	メディアセンターの操作
テレビを見る	テレビのチャンネルを見たい番組に合わせる			テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
HDD DVDレコーダーの録画データを見る	メディアセンターを接続した入力(ビデオ1)に切り替える	録画データを再生する		VCRに切り替えるリモコンの**VCRボタン**を押す
地上デジタル/BSデジタル放送を見る	デジタルチューナーを接続した入力(D端子入力1)に切り替える		見たい番組に※1チャンネルを合わせる	CBL・SATに切り替える(光デジタル接続の割当設定要)※2リモコンの**CBL・SATボタン**を押す
DVDを見る	メディアセンターを接続した入力(ビデオ1)に切り替える			DVDを再生する(操作ガイド参照)

※1 メディアセンターは、AACデコーダーを内蔵しています。デジタル出力はAACデジタル信号のまま出力するように設定してください。詳しい使い方は、その機器の取扱説明書をご覧ください。

※2 操作ガイドの"メディアセンター設定"の"光デジタル入力"の項目を選び、CBL・SATに光デジタル接続を割り当ててください。デジタル入力を使用する場合は、同時にアナログ音声信号も接続してください。

A 映像信号の接続について

テレビの映像入力端子とメディアセンターを接続する映像ケーブルは、付属の映像ケーブル(黄色のピンケーブル)またはS映像ケーブルをご使用ください。テレビ側にS映像入力がある場合は、S映像ケーブルをご使用になる方がより高画質で映像をお楽しみいただけます。

♪注意：メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子は接続しないでください。DVDビデオを再生した場合著作権保護の影響により画面が乱れる事があります。

♪注意：メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子を映像ケーブル(黄色)で接続している場合は、HDD DVDレコーダーの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子との接続も映像ケーブル(黄色)で接続してください。メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子をS映像ケーブルで接続している場合は、HDD DVDレコーダーの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子との接続もS映像ケーブルで接続してください。

テレビからの音声について

テレビの音声をLS-18Ⅲ/LS-38Ⅲで楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビの音量を最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

コンポーネント映像ケーブルで接続する場合

DVDビデオとデジタルチューナーはコンポーネント接続でよりきれいな映像で楽しみ、地上デジタル/BSデジタルチューナーからの音声をデジタルでメディアセンターに入力してAACなどのデジタル音声放送を楽しめます。

地上デジタル/BSデジタルチューナー背面パネル

テレビ用
ビデオ用
OPTICAL
左音声出力（白）
右音声出力（赤）
左音声出力（白）
右音声出力（赤）
映像出力（黄）
S映像出力
D端子出力
出力
L R L R

市販の角型光デジタルケーブル（23ページの※2参照）
操作ガイド"メディアセンター設定"の"光デジタル入力"の項目を参照してください。

市販のオーディオピンケーブル
（23ページの※2参照）

市販のオーディオピンケーブル

HDD DVDレコーダー背面パネル

左音声入力（白）
右音声入力（赤）
L R
映像入力（黄）
S映像入力
入力

左音声出力（白）
右音声出力（赤）
L R
映像出力（黄）
S映像出力
D端子出力
出力

市販のオーディオピンケーブル

市販または付属のS映像ケーブル

市販のコンポーネント映像ケーブル（D-ピンプラグ×3）

市販のコンポーネント映像ケーブル（D-D）

市販または付属のS映像ケーブル

付属のコンポーネントビデオアダプターケーブル
操作ガイド"映像設定"の"映像接続"で【コンポーネント】を選んでください。

どちらかを接続してください。

Power
AM
FM
RC
75Ω
Antennas
Optical
Optical
IN
OUT
Left
Right
Digital
Audio OUT
L R D
AUX
CBL·SAT
VCR
TV
Audio IN
Video IN
Video OUT
Composite
S-Video

メディアセンター背面パネル

付属のオーディオピンケーブル

市販のコンポーネント映像ケーブル（D-ピンプラグ×3）

S映像出力
映像出力（黄）
左音声出力（白）
右音声出力（赤）
L R
出力

S映像入力
映像入力（黄）
左音声入力（白）
右音声入力（赤）
L R
ビデオ入力1

D端子入力1
D端子入力2
D端子入力

テレビ背面パネル

	テレビの操作	HDD DVD レコーダーの操作	地上デジタル/BSデジタルチューナーの操作	メディアセンターの操作
テレビを見る	テレビのチャンネルを見たい番組に合わせる			テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
HDD DVDレコーダーの録画データを見る	HDD DVDレコーダーを接続した入力(ビデオ1またはD端子入力2)に切り替える	録画データを再生する		VCRに切り替えるリモコンの**VCRボタン**を押す
地上デジタル/BSデジタル放送を見る	メディアセンターを接続した入力(D端子入力1)に切り替える		見たい番組に※1チャンネルを合わせる	CBL・SATに切り替える(光デジタル接続の割当設定要)※2 リモコンの**CBL・SATボタン**を押す
DVDを見る	メディアセンターを接続した入力(D端子入力1)に切り替える			DVDを再生する(操作ガイド参照)

※1 メディアセンターは、AACデコーダーを内蔵しています。デジタル出力はAACデジタル信号のまま出力するように設定してください。詳しい使い方は、その機器の取扱説明書をご覧ください。

※2 操作ガイドの"メディアセンター設定"の"光デジタル入力"の項目を選び、CBL・SATに光デジタル接続を割り当ててください。デジタル信号を使用する場合は、同時にアナログ信号も接続してください。

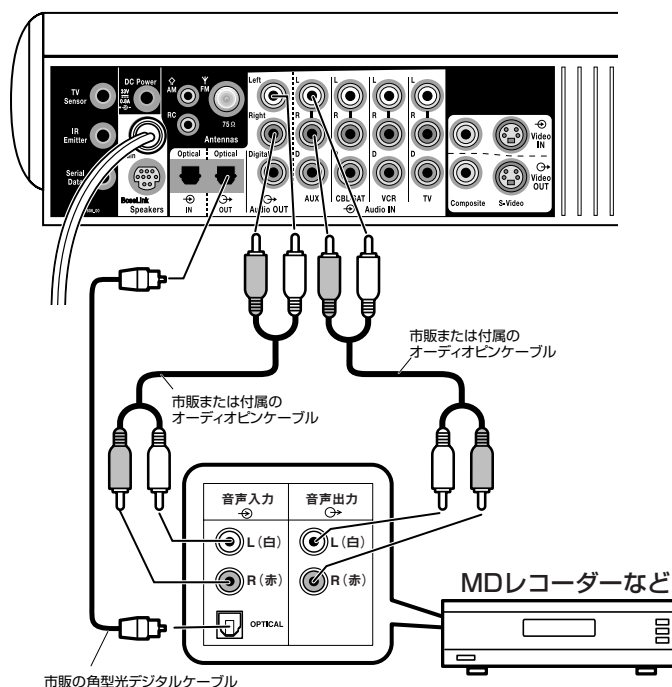
♪注意：メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子は接続しないでください。DVDビデオを再生した場合著作権保護の影響により画面が乱れる事があります。

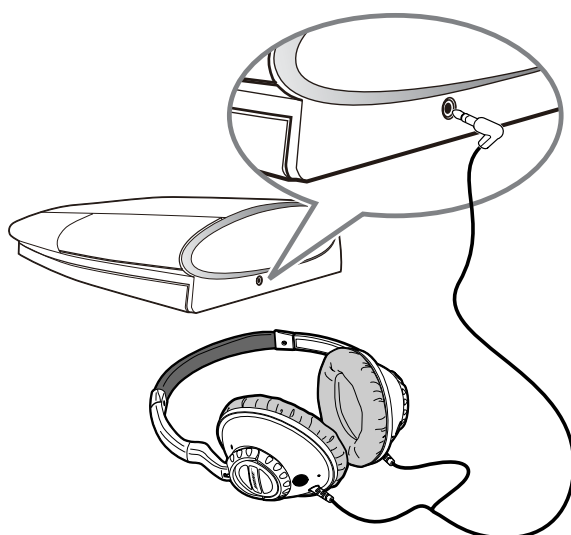
テレビからの音声について

テレビの音声をLS-18Ⅲ/LS-38Ⅲで楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビの音量を最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

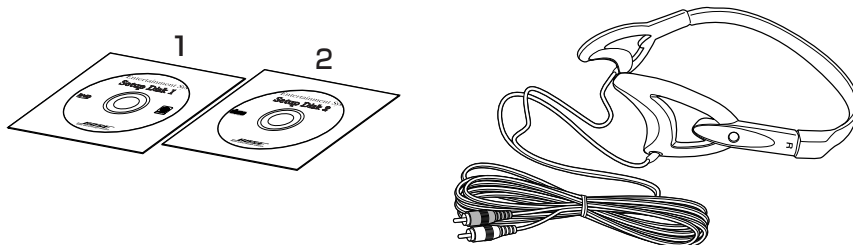
外部の機器に録音する場合

カセットデッキや、MDレコーダーを接続する場合

♪：外部機器の操作をメディアセンターから行うことはできません。また、外部の機器の使い方は、それぞれの機器の取扱説明書をご参照ください。

ヘッドホンの使い方について

市販のヘッドホンで音楽を聴くには、メディアセンターに向かって右側にあるステレオミニヘッドホンジャックを使用します。このジャックにヘッドホンプラグを差し込んでください。ヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからの音が止まります。

注意：ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を与えることがあります。

「アダプトIQ」による音場補正(システム調整)

付属品の中の青い小箱に2枚のセットアップディスクと専用のヘッドセット型マイクが入っています。

・セットアップディスク1を使ってスピーカーの結線が正しくされているかをチェックします。

・ディスク2では「アダプトIQ(ADAPTiQ)システム」によってご使用になる部屋の音響特性に合わせて LS-18Ⅲ/LS-38Ⅲ を調整します。

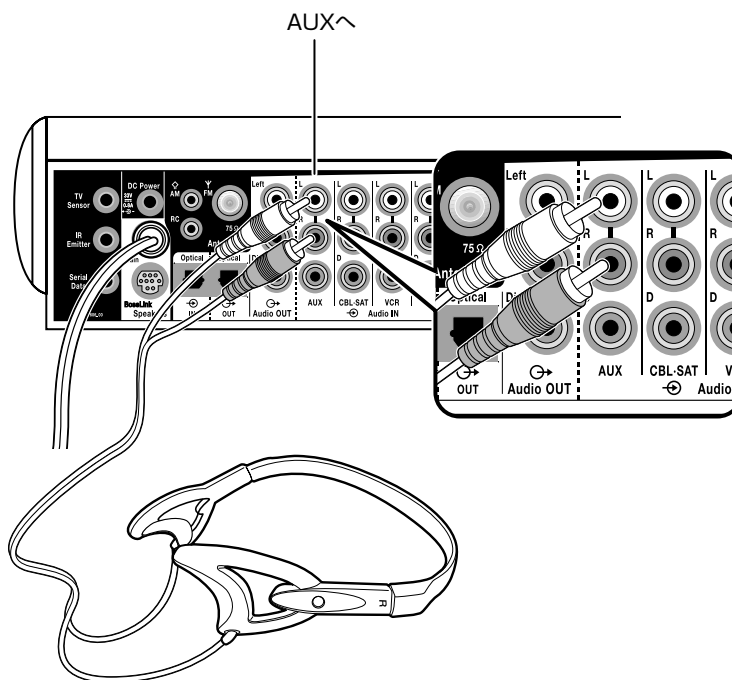
・ヘッドセット型マイクはディスク2の「アダプトIQ」による部屋の音響特性を調整するときに使用します。このヘッドセット型マイクは、調整作業中でテレビ画面に指示が出たときに使用します。

これらの2枚のディスクは全てのスピーカーの設置と結線が終了した後に使用します。

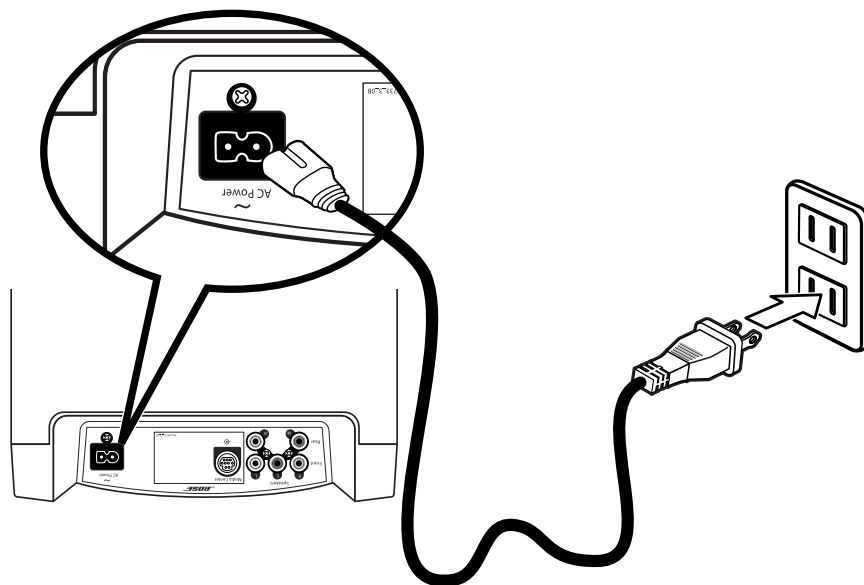
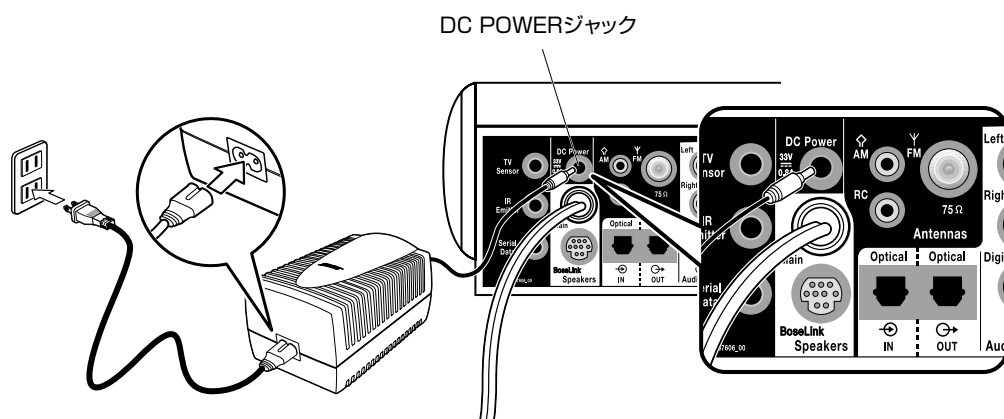
♪:調整の作業が完了するまで、約20分かかります。調整の最中に雑音が入ると正しく調整できませんので、誰からも迷惑をかけられたり、かけなくてもすむ状況のときに行うことをおすすめします。

調整用ヘッドセット型マイクを接続します

電源を接続する前に、システム調整を行うために、付属の調整用ヘッドセット型マイクをメディアセンター背面のAUX音声入力端子に接続してください。

AUXへ

電源を接続します

2本の電源コードを接続します。

1. ACケーブルの片側をベースモジュールの電源ジャックにしっかり奥まで差し込みます。反対側を壁のコンセントに差し込みます。

2. メディアセンター用ACアダプターの丸い小さなプラグを、メディアセンター背面のDC POWERジャックにしっかり差し込みます。

3. もう1本のACケーブルの片側をACアダプターの差し込み口にしっかり差し込み、反対側のACプラグを壁のコンセントに差し込みます。

システム調整の開始

1. テレビの電源を入れてください。また、テレビの入力切り換えが正しく行われていることを確認してください。
2. メディアセンターのフロントカバーを開けて**Open/Closeボタン**を押してください。
3. セットアップディスク1をディスクトレーにレーベル面を上にしてセットし、もう一度**Open/Closeボタン**を押してください。
4. リモコンの**CD/DVDボタン**を押します。
5. ディスクの再生が始まります。再生される内容をよく見て、聴いて指示にしたがってください。ディスク2に交換するタイミングの指示もされますので、その指示にしたがってディスク2をセットし、再生します。

♪：ディスク2を再生すると、付属のヘッドセット型マイクを使用するタイミングの指示があります。付属のヘッドセット型マイクは耳の上にかけて使用します。

2枚のディスクの指示に従ってシステム調整を行えば、お聴きになる場所での音響特性が最適な状態になるように調整されます。

・別の部屋にLS-18Ⅲ/LS-38Ⅲを設置しなおしたり、お部屋の中の模様替えを行ったときなどはお部屋の音響特性が変わってしまいます。そのような場合は、必ず"「アダプトIQ」による音場補正(システム調整)"を行って変わってしまった音響特性を調整してください。

♪：ヘッドセット型マイクとセットアップディスク1、2 は一緒にして、入っていた箱にしまい後日使用できるように安全な場所に保管しておいてください。

故障の場合のお問い合わせ先

故障及び修理のお問い合わせ先
ボーズ株式会　サービスセンター　☎ 0120-235-250
住所 〒206-0035　東京都多摩市唐木田1-53-9　唐木田センタービル

製品等のお問い合わせは先
ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター　☎ 0120-130-168

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

「故障かな？と思ったら」、「仕様」については操作ガイドをご覧ください。

ボーズ株式会社　http://www.bose.co.jp/
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル　☎ 0120-130-168

● 仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
● 弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

OM-1366
09・08・0.2K・C・1（I-M）